

## ETVのISO化に関する動向

### 1. IWG-ETVの最新動向

アメリカ、カナダが中心となり、ETV事業の国際連携・相互実証に向けた作業部会として、IWG-ETVが立ち上げられた。ETV事業を実施している、カナダ、欧州委員会、韓国、フィリピンがメンバー国であり、日本、米国、中国はオブザーバーとして参加している。

2013年11月1日にカナダのオタワで第10回IWG-ETVが開催されるとともに、2か月ごとに開催される電話会議（次回開催日は未定）で、ETVを実施する各国間での情報共有が行われている。今後、第11回IWG-ETVは、後述する第6回ISO-WGと併せて開催する可能性が検討されている。

第10回IWG-ETV、2014年10月1日、2015年1月21日開催の国際電話会議の概要は以下のとおり。

#### ○第10回IWG-ETV（2013年11月1日、カナダ・オタワ）

以下の議題の検討がなされた。メンバー国のフィリピン、カナダ、欧州委員会、韓国、フランス、ベルギー、オブザーバー国の日本が参加した。

（第10回IWG-ETVの検討議題）

- ① 将来的なETVの国際活動
- ② IWG-ETVのロードマップ
- ③ ISO-ETVの最新動向
- ④ 各国ETVの最新動向

#### ○IWG-ETV国際電話会議（2014年10月1日）

以下の議題の検討がなされた。メンバー国の欧州委員会、カナダ、フィリピン、デンマーク、韓国、オブザーバー国の日本が参加した。

（2014年10月1日開催国際電話会議の検討議題）

- ① ISO-ETVの最新動向
- ② IWG-ETVのロードマップ（国際的な働きかけのためのコミュニケーションパンフレット、Co-Verification・Joint Verificationに関するディスカッションペーパー）
- ③ 各国ETVの最新動向

## ○ I W G - E T V 国際電話会議 (2015 年 1 月 21 日)

以下の議題の検討がなされた。メンバー国の欧州委員会、カナダ、フィリピン、韓国、オブザーバー国の日本が参加した。

(2015 年 1 月 21 日開催国際電話会議の検討議題)

- ① I S O - E T V の最新動向
- ② I W G - E T V のロードマップ (I W G - E T V のロードマップ (最終草案)、国際的な働きかけのためのコミュニケーションパンフレット、Co-Verification・Joint Verification に関するディスカッションペーパー)
- ③ 各国 E T V の最新動向

## 2. I S O 化の動向

環境技術実証事業 (E T V) に係る提案書 (N W I P) が 2012 年 10 月 16 日に I S O 事務局により正式に受理され、I S O の Technical Committee 207 の Sub Committee 4 (S C 4) にて I S O - E T V が検討されることとなった。11 月 8 日に、I S O 事務局から Technical Committee 207 の Sub Committee 4 のメンバー国に対し、提案に対する検討の賛否の照会がなされた。その結果、2013 年 2 月 8 日に国際標準化機構 (I S O) より賛成多数で可決となったとの連絡があり、2013 年 5 月に E T V の国際標準化の草案を検討するための、各国から推薦される専門家より構成されるワーキンググループ (W G) (主査: カナダ) が立ち上げられた。

その後、同年 6 月の第 1 回 W G、10 月の第 2 回 W G、2014 年 1 月の第 3 回 W G、同年 5 月の第 4 回 W G におけるワーキングドラフトの議論を経て、7 月 22 日に I S O 事務局より Sub Committee 4 のメンバー国に対し、コミッティードラフトへの移行に対する賛否の照会がなされた。その結果、10 月 29 日に国際標準化機構 (I S O) より賛成多数で可決となったとの連絡があった。また、同年 12 月に第 5 回 W G が開催され、これに参加した。今後、2015 年 4 月に第 6 回が開催される予定となっている。

第 5 回 I S O - W G の概要、及び I S O - E T V に関する今後のスケジュール (想定) は以下のとおり。

## ○ 第 5 回 I S O - W G (2015 年 12 月 1 日～5 日、韓国・ソウル)

(第 5 回 I S O - W G の検討議題)

- ① I S O 14034 ワーキングドラフト ver3 に基づく E T V のプロセスのプレゼンテーション
  - ・ 詳細なフローチャート
  - ・ 大きな相違点及び潜在的な I S O 14034 の変更点や改善点の特性
- ② 適合性評価委員会 (C A S C O) のインプット/コメントのレビューと適合性評価の問題に関する議論

- ③ 次の段階に向けて必要とされる key topics と actions の議論
- ④ コメントのレビューと ISO 14034 ワーキングドラフトのアップデート

(第5回 ISO-WGのまとめ)

- 共同主査を務めるCASCO・モニカ氏が定年退職した。カナダの意向としては、議論の障害とならないよう、別の新しいスタッフが派遣されることは望まないが、一方でSC4議長から適合性評価に一部踏み込んでいるとの指摘もあるため、CASCOが何も関与しなくなることも望んでいない。DIS (Draft International Standard) の発行の前には、CASCOとのコンサルテーションが義務となっており、ひとまずしかるべきタイミングでCASCOへ、非公式にコメントがないか照会することとなった。
- コミッテードラフトの内容に関して、Annex C: 求められる知識とスキルは、重複する内容が本文に記載されるため、削除された。
- Annex G: 各国におけるETVの例は、記載の要否、記載する場合の具体的内容に関して両論があり、結論が得られなかった。
- 次回WGは、4月末に開催する方向(場所は未定)で検討されることとなったが、その後、2015年1月21日に行われたIWG-ETV国際電話会議にて、スコットランド・エジンバラにて4月27日の週に開催する方向で検討されることとなった。
- 第5回WGの段階でDISの作成までには至らなかったため、第6回WGの議論の結果を踏まえて、投票を9月のTC207総会(インド・ニューデリー)の前に行うか後に行うか決めることとなった。

(第5回 ISO-WGの所感)

- CASCOの立ち位置が現時点で不明確なので、今後の動向に関して注意が必要と考えられる。
- Annex F: 本国際規格の利用に関する手引きについては、継続的に検討されることとなるが、その過程で規格本文の取扱う事項に上乘せする記載がないか、または日本に不都合なものが盛り込まれないか注意する必要がある。
- Annex Gについては、国内ETVがISO-ETVに合致することをオーソライズするため、日本として先んじて叩き台を出す、ということも一案と考えられる。

年	月	国際動向（一部想定）	国際小委員会	その他（仮想定）
H27	2		第2回小委員会	第2回運営委員会
	3			第3回運営委員会
	4	第6回ISO-WG ←		
	9	→DIS投票？ ↓ 第7回ISO-WG →DIS投票？		
	11	↓ 第8回ISO-WG		
H28	1	↓ FDIS投票 →IS発行		

### 3. 国際小委員会の動向

ISO-ETVの方向性が概ね定まり、ドラフト上の具体的な文言の修正のフェーズに移行しつつあるため、本年度より下記（1）に加え、（2）、（3）についても議論の範囲に加えることとしている。本年度より、これらの検討課題に関係の深い各実証機関についてもオブザーバーとして参加いただき、平成26年5月に第1回小委員会を開催済みであり、今後3月に第2回小委員会を開催する予定。

- （1）ISO-WGへの対応
- （2）国際標準化への国内対応のあり方
- （3）ISO発行後の我が国での戦略的活用

回	主な議事	主な検討概要
第1回 平成26年5月19日 (月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第4回ISO-WGのWGドラフトとそれに対するコメントについて</li> <li>・国際標準化への国内対応のあり方について</li> <li>・ISO発行後の我が国での戦略的活用について</li> </ul>	<p>メンバー国に配布されたワーキングドラフト3を踏まえ、ドラフトにおける個別論点とその対応方針、日本国として提示するコメント（環境省案）を取りまとめた。</p> <p>また、27年度以降の事業実施要領における国内対応やISO発行後の我が国での戦略的活用について論点整理を行うとともに、国内対応の方向性、戦略的活用に向けた今後の検討方法について議論を行った。</p>